

包装紙で作る和傘の折り方

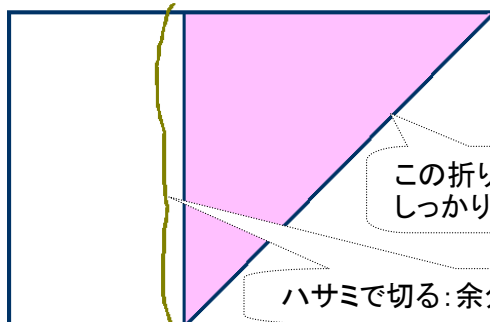
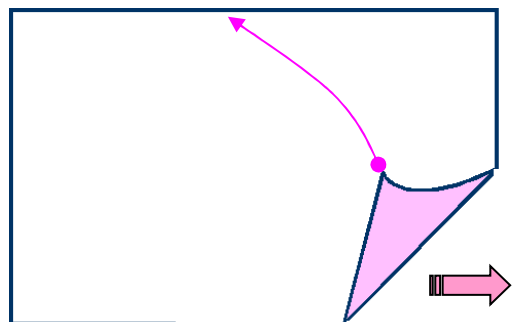
きれいな包装紙から和傘を作る折り方です。16本骨で本物のように開閉でき、そのまま飾り物になります。ここでは傘紙の直径が 30cm程度までのものを想定しています。紙は傘紙のほかに骨紙が必要です。傘紙と骨紙との組み合わせをいろいろ考えるのも楽しいものです。傘紙の直径の約70%以上が骨紙の大きさ(正方形の紙)となります。(A4大の用紙と 15cm角の折り紙でも可)

— · — は山折り

- - - は谷折り



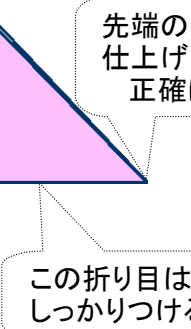
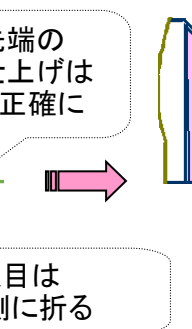
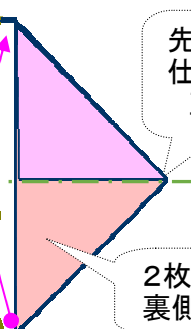
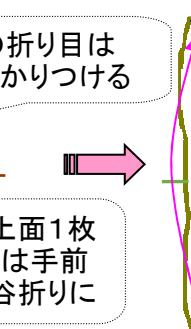
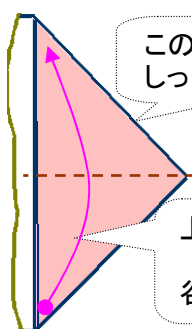
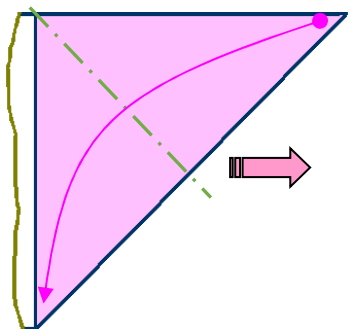
- ① 包装紙を図のように斜めに折り、ハサミで正方形に切りとります。



この折り目は
しっかりつける

ハサミで切る: 余分があっても良い

- ② 斜辺に沿って、半分に折り、さらにその上面1枚だけを手前に半分に折り、次いで2枚目を裏に折る。



この折り目は
しっかりつける

上面1枚
は手前
谷折りに

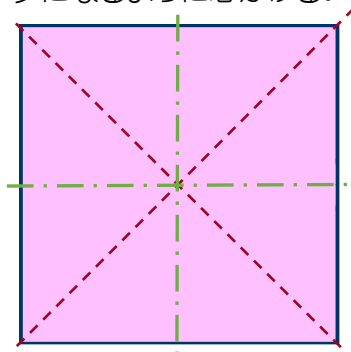
先端の
仕上げは
正確に

先端の
仕上げは
正確に

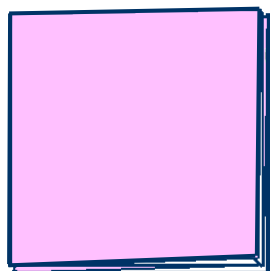
2枚目は
裏側に折る

この折り目は
しっかりつける

- ③ ①②で折り目がついたら広げ、次のとおり谷折り、山折りで 1/4 の大きさに折る。ここでは、折り目がシャープになるように心がける。

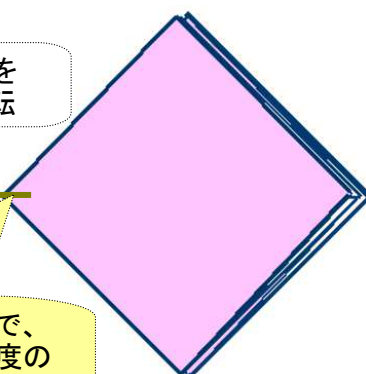


1/4 の
大きさに
折る。



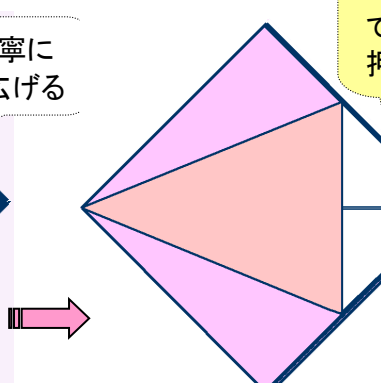
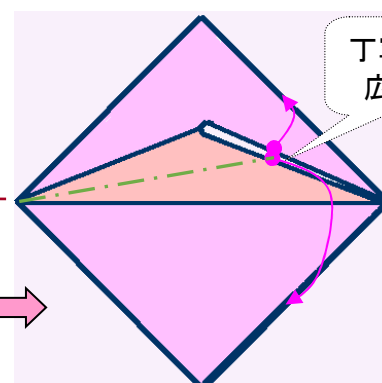
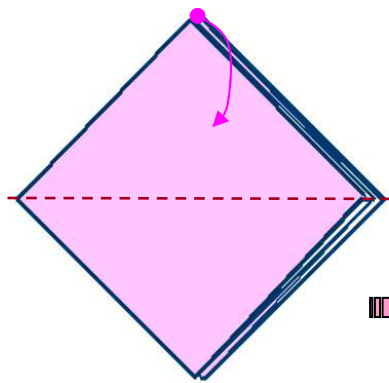
同じものを
45° 回転

同じものを
45° 回転



ここには32本の折り目が頂点に集中するので、ハサミを使い、あらかじめ頂点から5mm程度の長さの切れ込みを入れておく。

- ④ 四片のうちの山を一枚立て、図のように両側に広げる。

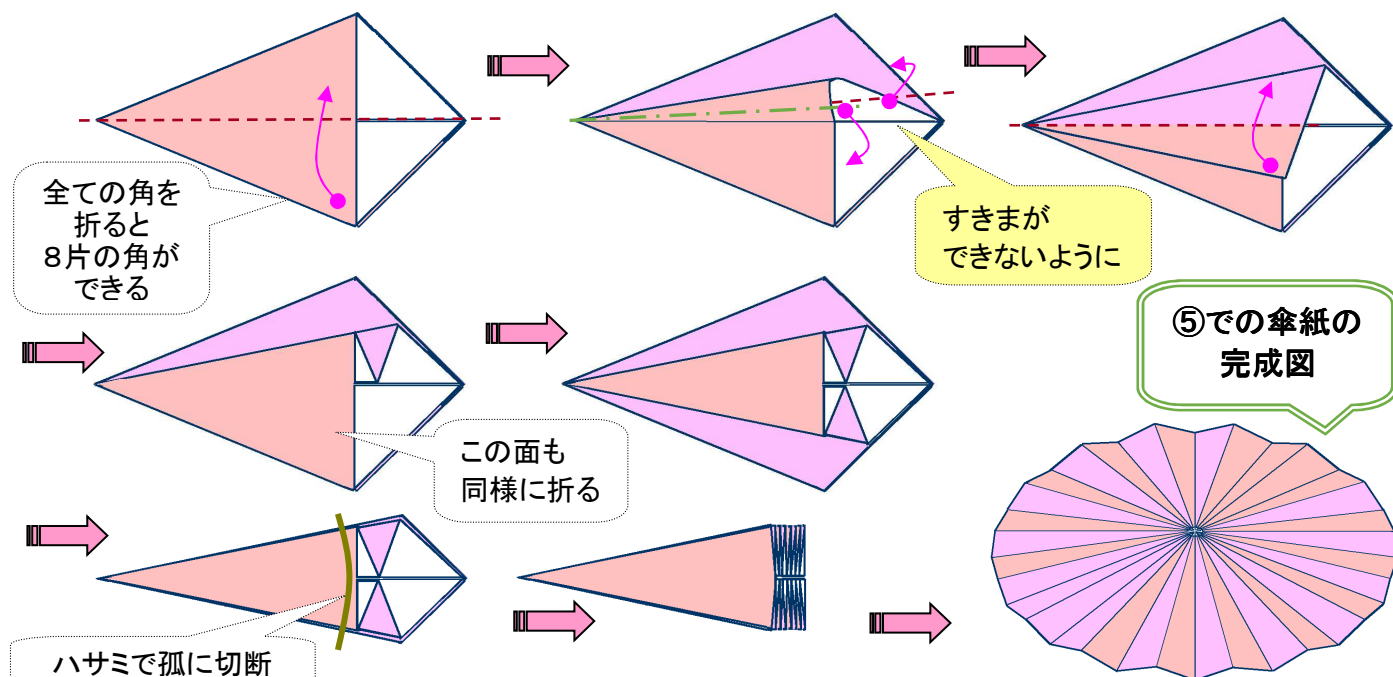


丁寧に
広げる

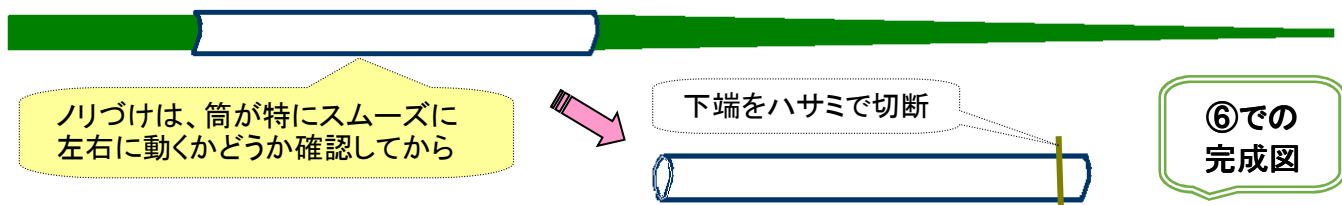
ここにすきまが
できないように
押さえる

④での
完成図

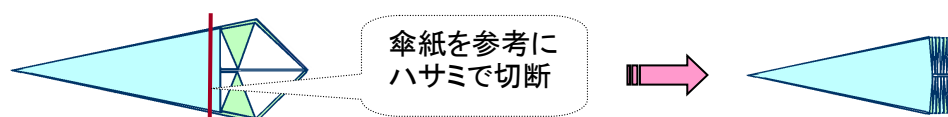
- ⑤ 残り3つの角を同様に折り、8つできた角をさらに④と同じ要領で折っていく。このとき、足の方にすきまができないように丁寧に折っていく。最後にハサミで傘の大きさに切る。



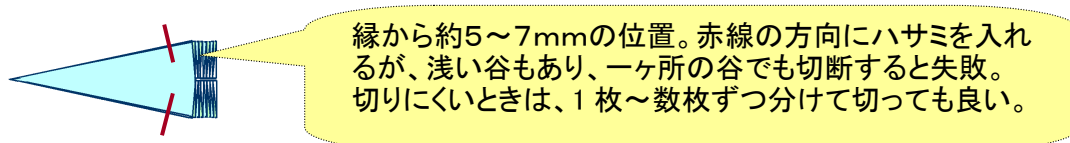
- ⑥ 傘のスライダ部分の作成(この部品は⑫⑮の作業で骨紙の部分につなぐことになる。)
幅10cmほどの紙を箸に巻きつけ紙筒を作る。このとき両端はそろえなくても良いが、きつくもなくゆるくもなく、スムーズに動く太さになったところで糊付けし、最後に下端をハサミできれいに切って完成。



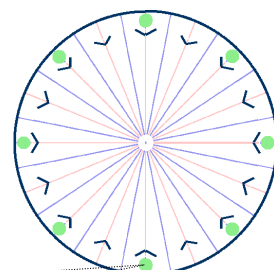
- ⑦ 傘の内部となる骨紙の折り方は、傘紙と作成の⑥まで全く同じであるが、当然大きさは違う。目安としては傘紙の半径の約70%を骨の長さの半径としてハサミで切断する。



- ⑧ 表面の縁から約5~7mmの位置で、骨紙の山の方から谷に向け、5割程度ハサミで切れ込みを入れる。(この操作は、谷の深さを見て慎重に操作しないと、一ヶ所でも切断すると失敗となる)



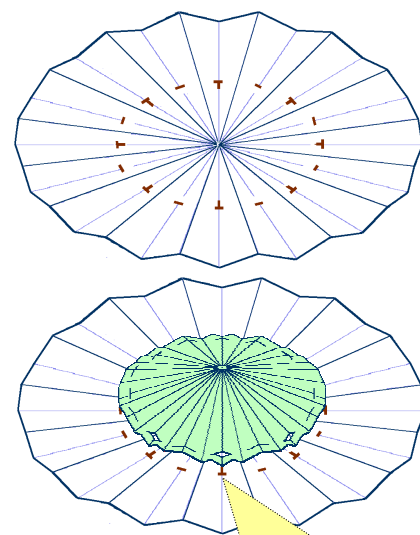
- ⑨ 骨紙の中央の穴に、箸とスライダを刺し穴を広げておく。次いで、骨紙を裏にして、広げ、⑧での切れ込みのある部分(図の●つ8ヶ所)だけを、⑪でのノリ付け目印のため、谷を山に折り返しておく。



- ☐ ⑩ 傘紙の裏面を広げ、ノリ付け位置を鉛筆で引いておく。ノリ付け部分は、裏面の谷、中心から骨の半径より約5mm内側の位置である。(ただし、ノリを貼る順序があるので、1つおきに「T」印でそれを示すと便利。)

- ⑪ 印をつけた箇所に少量の水性ノリを置く。貼る手順として、最初は 90° 間隔の4ヶ所を固定する。貼る際には、ツマヨウジで骨紙を微移動し位置決めし、しっかりと押え固着を待つ。次いで 45° の4ヶ所、それから、残りの8ヶ所の順に貼っていくと、ズレが少なく貼れる。骨紙の方は図柄を表に出すため印はないが、最初に貼る4ヶ所は、⑨で作った目印でわかるだろう。傘の出来を左右するのが、この⑪の作業。一つ一つていねいに行う。

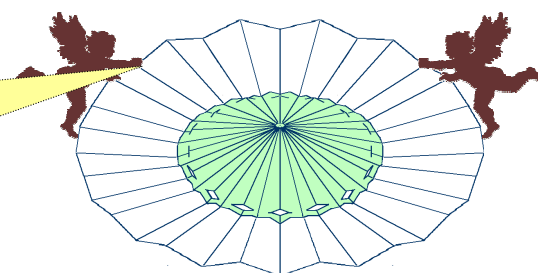
(作業には意外と時間がかかるので、乾きがやや遅い水性ノリが便利)



中心からの径は守るように

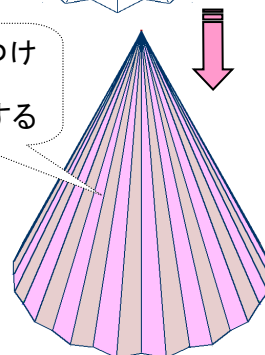
- ☐ ⑫ 傘紙と骨紙に折り目の癖をつけるため、約120° の幅で傘の縁をゆるく挟むように持ち、折り目を見ながら押していく。折り癖は傘を回転させながら少しずつ深くしてゆく。

左右から優しく持って押す。正しく折れないときは、ツマヨウジなどを使い山や谷を修正してやる。



- ⑬ 傘がある程度すばまった状態で、⑪でののり付けを完全にするために、傘紙の上から山の部分を挟むようようにしてしっかりと折り目をつける。

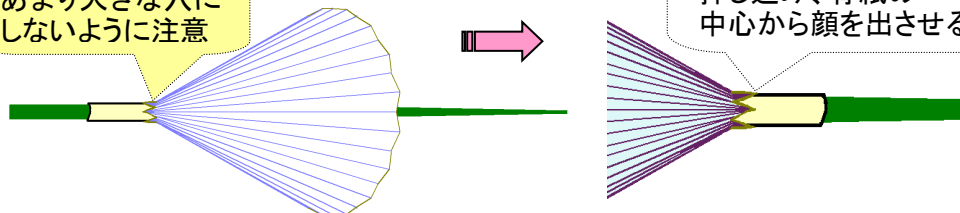
折り目をつけ
ノリ付けを
確実にする



- ☐ ⑭ 箸および⑥で作ったスライダを、図のように傘紙の上部から慎重に差し入れ、骨紙の中心から出す。

あまり大きな穴に
しないように注意

スライダは奥に
押し込み、骨紙の
中心から顔を出させる

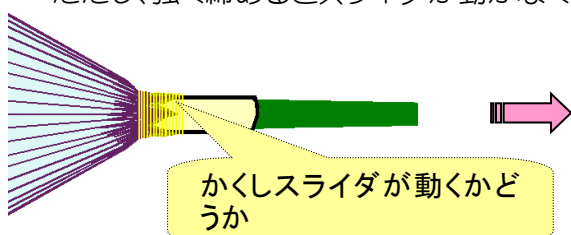


- ☐ ⑮ 箸を入れたままにして、スライダを骨紙より約2cmほど出し、速乾性ノリで骨紙の切れ込み部分をくっつける。次いで接着部分(骨紙の付け根)を糸できれいに仕上げる。(見える部分なので)

ただし、強く締めるとスライダが動かなくなるので注意。

骨の根元を巻き込むことで
きれいに仕上げる

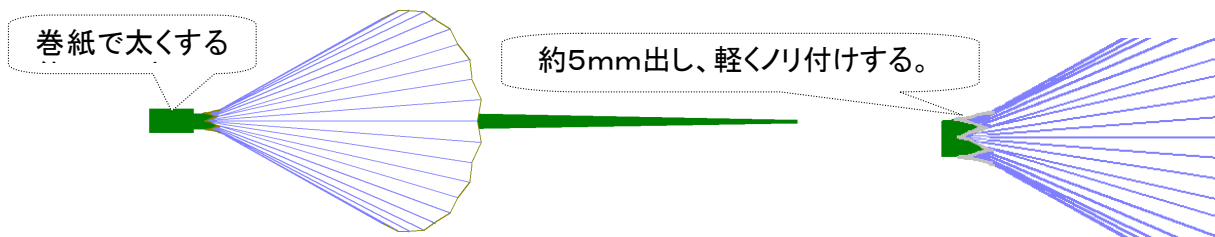
スライダが動くことを確認し最
後は、結ぶかノリで止める



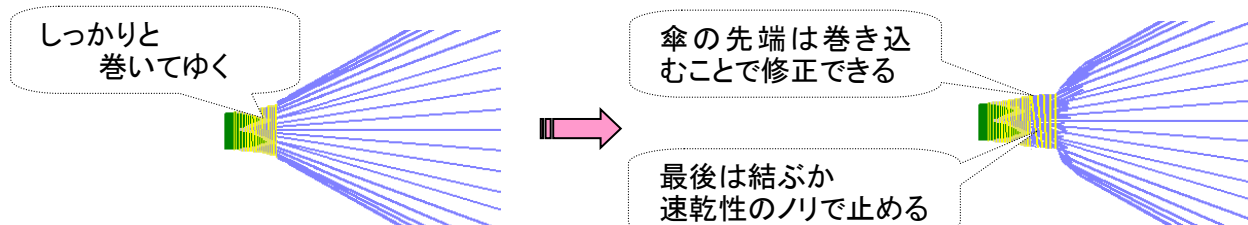
かくしスライダが動くかど
うか

- ☐ ⑯ 傘紙をやさしく押さえるようにして、スライダを移動させ傘を広げ、スライダの長さが適切であるか確認する。スライダが長すぎる時は傘紙の上部からスライダを覗かせ、余分な長さ分をハサミでカットする。

- ⑰ 細い筥に多数の折り目が集まると切れやすくなるので、傘の頭の方にも巻紙を施し太くしておく。
太くなった筥から傘紙が5mmほど上部に出たところで、速乾性ノリを使い筥と傘紙とをくっつける。



- ⑱ 傘紙の上部を糸で巻きつける。少しずつ傘に糸を食い込ませ、きれいに仕上げる。



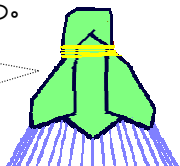
- ⑲ 紙が乾いていることを確認し、(乾いていないと濡れたところで切断する)傘を開閉してみる。

- ⑳ 傘紙の表面を撫でながら少しずつ閉じてゆき、一番閉じた状態で骨の関節の折り目をしっかりつける。

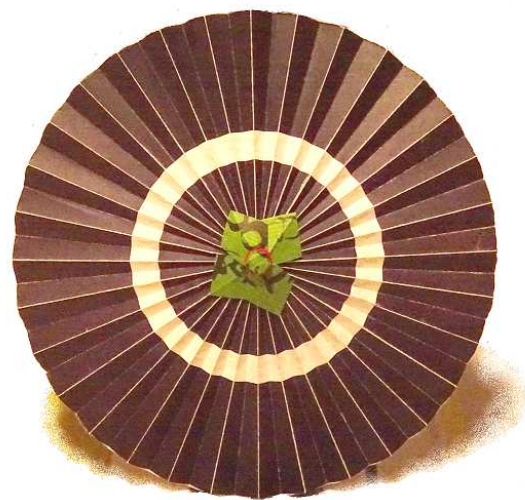
以上で完成ですが、好みに応じて、次の装飾を加えてもよい。(自分だけのオリジナルを！！)

- ・ 柄などに装飾を施す。
- ・ 柄の長さ、置き方を工夫する。
- ・ 傘の上部に笠をつける。

自分で工夫すれば楽しい



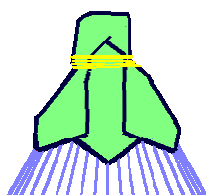
32 本骨傘の完成図



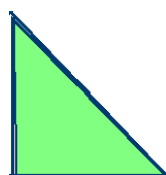
<32本骨への挑戦も>

③⑥ともに、さらに折りこむと32本骨の傘ができるのですが、傘紙、骨紙の中心に64本の折り目が集まるのですから、大幅な労力と慎重さを必要とします。絵柄のある傘は16本骨で十分ですが、蛇の目傘や小紋、無地の傘には32本骨の傘も良いかも…です。

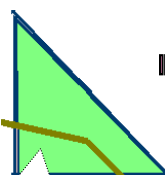
<笠の部分の作り方:一例>



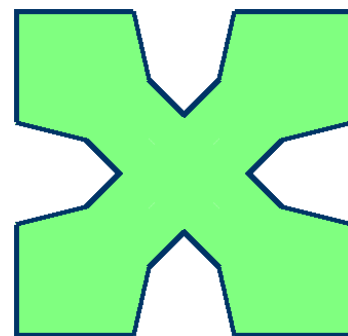
適当な大きさの正方形を傘紙の折り方①,②で下図のように折り、ハサミで切り取り、広げ、これを傘の先端に取り付けばよい。
笠の色・形・大きさは、好みがありますので。



ここが正方形の中心部



このように切り取る



笠紙の完成図